「恐怖伝染」の実験的検証
－認知、および生理的手法を用いて－

田村亮,・亀田達也

Abstract：脅威関連刺激に対して反応することが広く知られている扁桃体が、他者の恐怖表情に対しても活性化することが、近年の神経生理学研究において明らかにされている。この知見は、集団内で恐怖感情が同期化する可能性を示唆するが、現在までそれを示す直接的な行動的証拠は得られていない。本研究では、恐怖感情が個人間で伝染し得る可能性を検討するため、認知及び生理心理学的な手法を用い、実験的検証を行った。本実験ではまず初めに、プライミング刺激として、他者の恐怖表情をモーフィング画像により呈示した。その後、実験参加者の恐怖感情の生起を測定するために、Probe-detection 課題と生理反応の測定を行った。Probe-detection 課題とは、注意の方向を測定するために用いられる認知課題である。本実験から、恐怖表情に対して生理的な喚起水準が高まる、また、恐怖表情の表出に使用される皺眉筋が活性化するという結果は得られなかったが、他者の恐怖表情を知覚することで、別の他者の恐怖表情へ注意が向きやすくなるという知見が明らかになった。